

教会の喜びと感謝

10年ぶりの助祭叙階 高橋 学神学生（新潟）

カトリック

新潟教区報

第228号

カトリック新潟教区

編集発行人 教区報編集部

〒951-8106 新潟市東大畑通1-656

TEL 025-222-7457

FAX 025-222-7467

2004(平成16)年4月30日発行



司教は受階者の上に手を置き（按手）、叙階の祈りが荘厳に唱えられた

ドミニコ高橋 学神学生37歳（受洗北仙台教会・新潟教会出身）は、三月二十八日（日）十三時三十分から、出身教会の新潟教会において多数の信徒らの祈りと祝福の中で、佐藤敬一司教から助祭に叙階された。

佐藤司教は説教で「人の子は仕えられるためではなく、仕えるために来たのである」（マルコ10・45）と説き、すべての人の奉仕者となられた仕えるキリストの姿に倣って、励むようにと諭された。

教区にとっては一〇年ぶりの助祭叙階の喜びであって、主司式の佐藤敬一司教をはじめ、青年会活動以来の恩人の仙台教区司祭平田 浩神父や教区司祭十二名がそろって感謝の祭壇を

囲み、受階者の両親や親交の深かった北仙台教会の皆さん、高幡教会（東京日野市）の方々など一〇〇名を超す多数の信徒近隣のシスター達が喜びを分かち合い、当日のミサ献金は教区の一粒子に献金して、召命運動や祈願などさらなる決意を新たにしました。

「おめでとうございました。教区の全員で司祭・修道者の召命を願い司教教書の共同祈願を祈り続けていたものですから、きょうのお恵みをいただいて、こんなに嬉しいことはありません。新司祭が与えられます日を楽しみにして、これからも祈り続けます。」 参加者の喜びの声

2面に関係記事

昨年一〇月、神言修道会（以下、神言会）の創立者アーノルド・ヤンセン神父と同会最初の殉教者ヨゼフ・フライナデメツツ神父が列聖されました。神言会の神父様には新潟教区で一〇〇年も働いていただいています。心よりお喜び申しあげましょう。

私は神言会とフランシスコ会（自分の修道会）とを心のどこかで比べているんですね。性格がひねくれているせいかもしれ

神言修道会 ヤンセン神父の列聖

佐藤敬一司教

昨年十月五日バチカンで行われた聖アーノルド・ヤンセン司祭と聖ヨゼフ・フライナデメツツ司祭の列聖を記念するミサが、一月十二日南山教会（名古屋市）で捧げられた。

主司式はローマ教皇庁大使エムブローズ・デ・パオリ大司教。野村純一名古屋司教などと共に共同司式の祭壇を囲んだ佐藤敬一司教が聖ヤンセンと新潟教区とのかわりと思いを語られた。

（列聖聖人のことは二〇〇三年教区報・第二二六号に掲載済）

ません。そして、神言会に大きな差をつけられた思いでいるのです。神言会は新潟教区にも毎年若い司祭を派遣してくれまし、何か勢いのようなものがあるのを感じます。一体どんな理由があって、この差が出るのでしょうか。今日、私は自分なりに納得できる理由を見つけたように思います。神言会の皆さんには、非常に近いところに聖人がいたのです。

聖人の影響は大きいですね。

助祭叙階を受けました

高橋 学



平素から一粒会への献金や祈りなどの形で、新潟教区神学生育成のための援助に地道に尽力してくださっている信徒の皆様、感謝を申し上げます。お蔭

様で三月二十八日に新潟教会で、佐藤司教様より助祭叙階を受けました。自分よりも余程有為な青年が共同体の中に混じっているのを見ると、この日本社会で最も惨めな者が招かれたのであらうと思えて仕方がありません。教会共同体は救いの計画に協力するために、自分たちの中から奉仕者を任命してきたと言われます。私は奉仕者と呼ぶには拙い器で、申し訳ないと感じることがありますが、微力ながら努力する心積もりでおりますので、よろしくお願い致します。

私は一〇年前シノドス（世界司教代表者会議）で、マザー・テレサに会っています。ヴァチカンの中庭で、老人施設から出てくる彼女（今は福者）に出会いました。会議の休み時間に、お年寄りを慰めに行っていたのでしよう。「あの建物、パパ様がくださったのです」と言う福者の笑顔は本当に輝いて見えました。直接の出会いはいはそれだけです。しかし、後で読んだり聞いたりすることはみな、あの笑顔に重なります。そして、この世の雑務に忙殺されている私の目を神様の方に向けてくれるのです。

聖ヤンセンが日本に宣教師を派遣してくれたのは一九〇七年、天に召されたのはその二年後。ですから初期の宣教師たちは、間違いなく聖人の影響を受けていますね。聖人の何かを実感していたと思います。その世代は過ぎました。しかし、今の世代の神父様がたも、何かの形でその影響を受け継いでいるのではないのでしょうか。日本のフランシスコ会には実感できる、こういう近い聖人がいません。八〇〇年前の聖人は書き物や話の中でしか知ることができません。実感するのは難しいのです。近い聖人はうらやましいですね。しかし新潟教区は聖ヤンセンが選び、最初の宣教師を派遣してくれた教区です。今も祈ってくれていることは間違いありません。聖ヤンセンはわたしたちの聖人でもあるのです。心を合わせてアーノルド・ヤンセン神父の列聖を祝い、その取り次ぎを願いましょう。

三森泰三神父 司祭叙階六〇年へ

三森泰三神父（教区本部付）は、三月十九日に司祭叙階六〇周年を迎えて、来る五月五日（水）一〇時三〇分から、新潟司教座聖堂で記念ミサを捧げる。

このたびの慶祝は、佐藤司教様の意向で新潟県内の教会を主体として祝うもので、キリスト

走馬灯の如き 司祭職六〇年

三森 泰三

一九四四（昭和十九）年三月十九日四旬節第四主日、司祭叙階。今年はいくから六〇年になった。ローマのプロパガンダ神学院で、当時布教聖省長のフマゾニ・ビオンディ枢機卿から叙階された。十九名と一緒に叙階された。戦争中で、十九名は少数だった。日本人では札幌教区の田村忠義師と二人であった。

翌二十日聖ヨゼフの祝日、東京の暁星中学のローマの姉妹校で初ミサを捧げた。お昼の食事は当時最初のバチカン日本大使となられた原田大使宅でござうになった。

昭和二十年八月十五日終戦。その翌年一月にヨーロッパ在住の日本人たちと一緒に帰国。昭和二十一年一月の初め、ナポリで引揚船に乗る。スペイン船であった。地中海から初めてスエ

の司祭職にお召しくださった神をたたえ、それに応えて教区のために長い年月を尽くされた三森神父のご苦勞に感謝の意を表して、ともに祈り祝おうと、同実行委員会は神父の親族、来賓関係者をはじめ、県内の教会や県内修道会に参加を呼びかけていた。

ズ運河を出るといふ船で心細かった。フィリピンのマニラで日本の引揚船に乗り換え、三月末に浦賀に上陸した。

帰国後、東京吉祥寺の神言会のアルベルト・ホームにお世話になり、荷物を受け取り、三月末新潟に帰った。途中、名古屋の松岡孫四郎教区長（後に司教となる）は新潟教区長を兼ねておられたので、帰国のあいさつをし、新潟教会の助任司祭の任命を受ける。

新潟教会に帰り、同年四月中は休みを頂き、秋田の郷里に帰る。

同年五月から新潟教会に着任、新潟では新津と村松の信者のために月に一回ずつミサと研究会などをした。まだ教会がなかった。

同年十二月二十三日、鶴岡教会の主任司祭だった司祭が亡くなられたので、新潟から鶴岡へ通った。四月に秋田教会に転任した。

二年後、名古屋の聖ヨハネ小

神学校の責任者となって約四年務める。教区長が名古屋教区と新潟教区を兼ねておられたので、両教区の小神学生が南山中学、同高校に通っておられた。

一九五三年三月に野田時助教区長が新潟教区長に任命されたので、名古屋の小神学校を引き揚げて新潟へ帰り、新潟教会の主任司祭と、教区長の補佐を兼ねた。当時新潟教区には教区司祭はいなかった。柿崎鉄郎師がいて、私より先輩だったが、アメリカ・ニューヨークに留学していた。やがて鎌田師や町田師などが司祭になられたが、当分私が新潟教会の主任を務めた。

野田教区長が一九六一年に亡くなられ、伊藤庄治郎師が司教に任命され、私は一九八五年まで新潟教会の主任と伊藤司教の補佐を続け、佐藤現司教の任命により青山教会、寺尾教会に移り、一九九六年四月再び新潟教会に戻って今日に至っている。現在はヴィアンネー館に住まいし、新潟教会の日曜日のミサを捧げ手伝っている。

助祭とは

叙階の秘跡には三つの段階があります。司教叙階、司祭叙階、助祭叙階です。叙階の秘跡を受けた司教、司祭、助祭はいずれも聖職者（教役者）と呼ばれますが、そこには役務の違いがあります。司教と司祭を混同することは少ないでしょうが、司祭と助祭の違いとなると多少混乱があるようです。時どき助祭を助任司祭のことだと勘違いして

集会司式者・聖体奉仕者の養成



新潟県内の三地区共催講座

深刻さを増している司祭の高齢化、司祭数の不足という現状の中で、教会共同体に奉仕する新しい役務者養成の必要から、昨年の秋の山形地区主催の同講座に続いて、四月十八日（日）と四月二十五日（日）の二回、いずれも十四時から十六時三十分まで長岡表町教会を会場に、新潟・新発田・長岡地区共催の集会司式者・聖体奉仕者養成講座を開き、参加は五十四名。日程とカリキュラムは次のとおりであった。

四月十八日 講師大瀧浩一神父
第一講話 教会と奉仕の使命
第二講話 教会にいのちを与える聖体

四月二十五日
第三講話 典礼とは何か・主日の意義・集会祭儀の意義
講師 町田 正神父
講師 高敷 修神父

いる方もおられます。

すべての信者は洗礼と堅信によつて大祭司であるキリストの祭司職に与ります。これは共通祭司職と呼ばれます。信者はそれぞれ日々の祈りと生活をキリストに結ばれて神に捧げる使命を持つているのです。この祭司職のためにもう一つ役務としての祭司職があります。これは共通祭司職をよく果たせるよう信者に奉仕する祭司職です。司教と司祭は叙階によつてこの役務としての祭司職を受けます。一方助祭は、そこに「祭」という字が付きますが、役務としての祭司職を受けるものではありません。したがって司教や司祭のよ

うにミサを捧げることはありません。助祭は奉仕の務めのために叙階されます。具体的には司教の権威と指導のもと次のような任務を担います。ミサの中で司教と司祭を助け、聖体を配り結婚式に立ち会つて祝福し、福音を宣言し、説教を行い、葬儀を司式します。助祭はこのような典礼上の奉仕や様々な愛の奉仕によつて共同体に仕えます。

そもそも助祭（ディアコノス）は「給仕をする者」「仕える者」を意味します。使徒言行録でステファノをはじめとする七人が食事の世話のために選ばれます。彼らが最初の助祭と考えられます。その任務は時代と

ともに変遷し、西方教会では永続的な役務ではなく、司祭に叙階される前の過渡的な役務となつていきました。しかし、第二バチカン公会議後、終身助祭職が復興されることになりました。終身助祭には、独身者だけではなく妻帯者も含まれます。このように現在では、過渡的な助祭職と終身助祭職があり、ともに共同体に奉仕する使命を担っています。（助祭について詳しくは、『カトリック教会のカテキズム』一五六九項～一五七一項、『カトリック教会の教え』二三〇ページ、『新カトリック大辞典』の関連箇所をご覧ください。）

宣教できる共同体のあり方も検討

司祭評議会

新潟教区司祭評議会の三十九回総会が三月二十九、三十の両日開かれて次の事項を協議した。

一、新潟教区司祭の集い

六月七、八の両日、「共同司牧」をテーマに、すでに共同牧に取り組んでいる京都教区から司祭を招き、鳥海山荘(山形県八幡町)で開くことになった。

昨年は「主日の集会祭儀と病人の聖体拝領の奉仕のあり方や奉仕者の養成」をテーマにしたが、アンケートの結果、新潟教区での「共同司牧」の可能性について検討することとなった。

二、教区会計報告

例年、春の総会で会計報告が行われるが、今回は、全体の収支のほかに、各地区での「司祭活動負担金」の状況についても話された。4面に関係記事

三、教区佐渡キリシタン塚巡礼
教区信徒大会のない年に、佐渡と米沢に巡礼を行って、今年十月十一日(体育の日)佐渡キリシタン塚へ巡礼することになった。申し込み等は各地区で行うことになっているため、十一時から現地まで、雨天の場合は十一時三十分から佐渡教会でミサを行うことだけが確認された。

四、新潟・新発田・長岡地区合同聖体奉仕者養成講座

四月十八日と二十五日の二日間、長岡表町教会を会場に、合同の奉仕者養成講座が開かれることになって、申し込み者数、講座内容等の報告があった。

五、司祭の高齢化、減少とこれからの教会のあり方
次の話し合いがあった。

「司祭の高齢化や足りなくなったりする中で、どのように今までの体制を維持していくのかという守りの姿勢と、そのような状況の中でどのような宣教、司牧が考えられるかという攻めの姿勢が考えられるが、いったいどちらなのか」という質問から始まり、他の教区で「共同司牧」「司祭協力体」というように「宣教できる共同体となる」ことが前面に出されていることが紹介された。教区、修道会を問わず、新潟教区から召命が出ていないという現実、体験学習などから召命が生まれている他の教区の例、つぶれそうになったが急に召命が「やってきた」という修道会の例なども紹介され、現在地区単位で結ばれている修道会との契約を人数での契約に変え、教区司祭と一緒に働く可能性はないかという意見も出された。

簡単に答えを出せる問題ではないが、今回の話し合いを踏まえ、教区司祭の集いなどで、引き続きこの問題について検討していくことになった。

六、各地区情報交換

各地区の動きと、今後の予定について情報交換があった。

七、各担当司祭報告

教区中学生錬成会は八月九日(月)から十一日(水)に「あつたか山(秋田県八郷町)」に開かれる。



また、夏にやろうよ!!

たくましい信仰を育てる(長岡地区)

三月十四日、十五日の両日、高田教会で長岡地区主催の中高生の春の合宿を開き、二十二人の中高生と八人のリーダーが集って、過越しの神秘、主イエスの受難、死、復活のみことばを生活を通して深めるためのプログラムを実施した。

特に真夜中に聖堂で二十二本のろうそくのもとで、一時間余りの祈りのときをもった。

夏の合宿は八月四日、五日、高柳町のじよんのび村での実施を予定していて、長岡地区以外の中高生の参加も呼びかけることにしている。

合宿参加者の声 ◇四旬節の意味が分かってよかった。(中学三年生 佐藤 信・高田)

◇今回の合宿でも、いつもと同様にみんなでワイワイ楽しく過ごすことができた。合宿では普

創立50周年を祝う

聖母保育園(長岡地区・直江津)

三月十三日(土)直江津教会(長岡地区)に隣接する聖母保育園が創立五〇周年を迎え、木浦正幸上越市長および地区・教区の関係司祭や保育園の旧職員が参列して、盛大に記念式典が行われた。

同保育園が加入している社会福祉法人フランシスコ第三会理事長の佐藤敬一司教は「今の世界は豊かな国はますます豊かになり、貧しい国はますます貧しくなっており、これを解決する効果的な方法がないと言われている。自分中心の人間の心が変わらない限り、どうにもならない世界のように思われる。どうぞ良い世界にするために、これからも純粋な子供たちの心に、弱い人や小さな人に対する優しさ、苦しんでいる人や貧しい人に対する思いやりを育てていただきたい。これがまさに『聖母保育園』が目指してきた教育であつたと思う」と五〇年におよぶ関係者の努力に感謝を述べた。

聖母保育園長フベルト・ネルスカンプ神父の話 50年の間に卒園児は一、七二八人になりました。雨の日も雪の日も子供たちの送り迎えをしたお父さんお母さんは大変ご苦労さまでした。感謝しています。

私は職員と共に子供たちの成長を見守り、いつも新しい園児を喜んで迎え、涙を流しながら卒園児を見送ります。毎日、園児とそのご家族の皆さまの幸せをお祈りしています。

司祭の異動

▽秋田教会主任(秋田教会助任)ホセ・ルイス・ロレンゾ ▽神言会▽土崎教会主任(大館教会主任、鹿角教会兼任)飯野耕太郎 ▽神言会▽本荘教会主任(土崎教会主任)桃田清明 ▽神言会 ◆転出 名古屋教区五反城教会へ(秋田教会主任)七種照夫 ▽神言会▽留学(秋田教会助任)成井大介 ▽神言会▽留学(大館教会助任)ヤヌシュ・クチツキ ▽神言会 ◇転入 大館教会主任、鹿角教会兼任(長岡教区西町教会助任)ノルベルト・ナハク ▽神言会▽秋田教会助任(名古屋教区恵方町教会助任)フェリックス・ロボ ▽神言会▽大館教会助任、鹿角教会兼任(新司祭)フルディマール・ファミニア ラガオ ▽神言会

新潟司教区統計

(2003年12月31日現在)

1. 概 況

(教区人口比：0.16%)

面	積		33,516km ²	信者 総 数		7,711人
人	口		4,850,802人	求 道 者		76人

2. 人員構成

司教	区	司	教	1	聖霊奉侍布教修道女会	邦人	9	
			祭	邦人 15		外国人	2	
				外国人 1	聖心の布教姉妹会	邦人	62	
		助	祭	邦人 0	マリアの宣教者フランシスコ修道会	邦人	3	
神		言	員	邦人 5	ナミュール・ノートルダム修道女会	邦人	6	
				外国人 6	オタワ愛徳修道女会	邦人	3	
フ	ラ	ン	シ	ス	コ	会	員	外国人 5
イエズス・マリアの聖心会			員	邦人 2				外国人 1
				外国人 1	聖クララ会	邦人	9	
						志願者	邦人	1
		助	祭	邦人 1	聖母カテキスタ会（在俗）	邦人	14	
神		学	生	邦人 1				

3. 事業

小 教 区 教 会	32	幼 稚 園	27
小 巡 回 教 会	4	園児数	3,208
集 会 所	5	女 子 中 学 校	2
女 子 修 道 院	10	生徒数	155
社 会 福 祉 事 業		女 子 高 等 学 校	2
老 人 ホ ー ム	3	生徒数	1,338
宿 泊 を 伴 う 利 用 者 数	180	女 子 短 期 大 学	2
そ の 他 の 老 人 福 祉 事 業	13	学生数	641
宿 泊 を 伴 う 利 用 者 数	3,090	児 童 福 祉 事 業	
宿 泊 を 伴 わ ない (年 間 の べ 人 数)	31,730	保 育 園	7
そ の 他 の 福 祉 事 業	2	園児数 (年間のべ人数)	152,765
宿 泊 を 伴 う 利 用 者 数	3,285	そ の 他 の 児 童 福 祉 事 業	6
宿 泊 を 伴 わ ない (年 間 の べ 人 数)	126	宿 泊 を 伴 う 利 用 者 数	282

4. 移動

数字は人数

[illegible]

数字は人数

教 会 名	信徒数	洗 礼		堅 信	結 婚	求道者
		幼 児	成 人			
1 青 山	225	3	2	1	0	1
2 亀 田	71	0	0	0	1	0
3 白 根	27	0	0	0	0	0
4 寺 尾	173	1	3	21	1	5
5 新 潟	866	0	4	2	6	7
6 花 園	545	0	1	0	2	1
7 鳥 野	66	1	1	1	1	4
8 佐 渡	77	0	0	0	0	0
新 潟 地 区 計	2,050	5	11	25	11	18
9 加 茂	30	0	0	0	0	0
10 三 条	123	0	2	0	1	0
11 新 発	270	2	1	0	0	0
12 栃 田	40	0	0	1	0	0
13 新 津（村松）	144	0	0	0	0	0
14 見 附	139	0	0	0	0	0
新 発 田 地 区 計	746	2	3	1	1	0
15 糸 魚 川	161	0	1	0	1	0
16 柏 崎	432	6	6	13	1	12
17 高 田（妙高）	773	10	12	23	2	7
18 十 日 町	117	7	1	0	0	0
19 直 江 津	168	1	0	0	0	0
20 長 岡 表 町	248	7	2	0	2	4
21 長 岡 福 住	227	1	3	5	0	3
長 岡 地 区 計	2,126	32	25	41	6	26
新 潟 県 合 計	4,922	39	39	67	18	44
22 酒 田	61	0	0	0	0	2
23 鶴 岡	195	0	1	0	1	0
24 山 形	458	4	10	8	2	10
25 米 沢	130	0	3	3	0	5
山 形 地 区 計	844	4	14	11	3	17
26 秋 田	1,009	11	6	10	3	10
27 大 館	59	1	0	6	1	1
28 鹿 角	61	1	0	0	0	0
29 土 崎	378	1	1	0	2	2
30 能 代	70	0	1	1	0	1
31 本 荘	46	0	1	0	0	0
32 横 手	170	1	0	0	0	1
秋 田 地 区 計	1,793	15	9	17	6	15
新 潟 教 区 計	7,559	58	62	95	27	76
聖職者・信徒信者総数	7,711	聖職者数（海外派遣司祭1名）152名＋一般信徒7,559名				

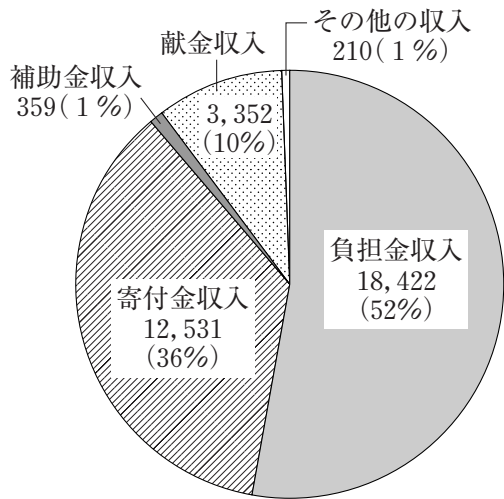
【県別内訳】

参考資料 (2003年)

■新潟県	県庁統計課	■秋田県	県庁統計課
面積…12,582km ²	(2002年)	面積…11,611km ²	(2002年)
人口…2,455,480人	2,463,521人	人口…1,166,092人	1,174,905人
信徒数…4,922人 (人口対比0.20%)	4,929人	信徒数…1,793人 (人口対比0.15%)	1,787人
■山形県	県庁統計課		
面積…9,323km ²	(2002年)		
人口…1,229,230人	1,235,364人		
信徒数…844人 (人口対比0.07%)	833人		

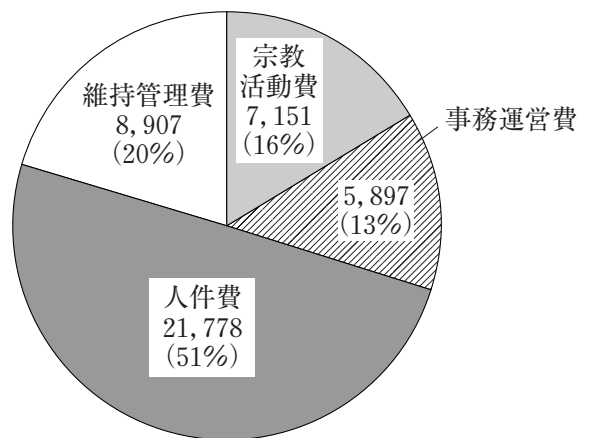
15年度収入

数字の単位は千円



15年度支出

数字の単位は千円



厳しい教区財政

赤字は九百万だが經常収支はほぼ同じ

教区の十五年度一般会計は、収入が三千四百八十七万円、支出が四千三百七十三万円で、全体の収支としては約九百万円の赤字となった。

うじて収支はほぼ同じだったということになる。

教区の会計は、基本的には小教区が拠出負担する教区維持費（小教区負担金）によって賄われているので、小教区の苦しい会計事情がそのまま反映して、厳しい教区財政になっているといえる。

サッシへの取替工事費（施設修繕費）八百五十万円の緊急支出によるもので、それを除くと辛

支出の五〇%以上を占める人件費のうち、司祭の給料は千三百万円あまりであるが、それを

園長をしている司祭等の寄付金千百八十六万円と、本部に納められる新潟・新発田地区の小教区からの司祭活動負担金二百六十万円とで賄っている。園長を出来る司祭の減少、園児数の減少による幼稚園の財政事情により、園長給からの寄付に依存し続けることは難しい状況になつてきているにもかかわらず、司祭活動負担金は、伸び悩みの状態が続いている。

信徒の責務である教会の維持と、小教区のために働く司祭の生計の維持について各小教区で話し合っていただき、一層のご協力をお願いしたい。